

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	一般財団法人ちりゅう芸術創造協会	
施 設 名	知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	10,972	(千円)
	公 演 事 業	4,275 (千円)
	人 材 養 成 事 業	845 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,852 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	パティオ小劇場演劇 2022 シアターRAKU 創立 25 周 年記念公演 RAKU 歌舞伎 ☆から騒ぎ	令和 4 年 6 月 26 日	原作：ウィリアム・シェイクスピア 演出：流山児祥 出演：シアターRAKU	目標値	60
		花しょうぶホール		実績値	106
2	知立の山車文楽新作プロ ジェクト「おさき玉城恋 の八橋」	令和 5 年 3 月 11, 12 日	原案：板倉ミチ、台本演出：木村繁 出演：豊松清十郎、知立山車文楽保 存会、劇団前進座	目標値	400
		かきつばたホール※		実績値	164

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	パティオ・ウェブ、ヤング・パティオウェブ研修	令和4年4月17日	講師：飯島敬子、鳴海康平（第七劇場主宰・演出家）、高田博臣（劇団うりんこ付演劇研究所所長）他	目標値	70人 (P・W登録者60人、Y・PW新規参加者約10人)
		かきつばたホール		実績値	200
2	国指定重要無形民俗文化財・ユネスコ無形文化遺産「知立の山車文楽とからくり」保存会公演	令和4年7月3日	知立山車文楽保存会 知立からくり保存会 後藤静夫（解説）	目標値	150
		花しょうぶホール		実績値	150
3	伊藤キムダンスアカデミー	令和4年4月9日	講師：伊藤キム	目標値	のべ40名
		リハーサル室1		実績値	32
4	パティオ登録アーティストによる「ワンコインア・ラ・カルト」シリーズ (Vol.4、Vol.5)	令和4年10月2日	出演：PUENTE、岡林和歌(クラリネット)、後藤浩二(ピアノ)、jujusumire(ボーカル)ほか	目標値	500名(2公演分)
		かきつばたホール		実績値	293

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」 for 小中学校	通年	出演者：HANDSIGN、ラストラーダカンパニー、PlatEdgE、PUENTE、文楽座技芸員他	目標値	市内小学校7校、中学校3校のべ4,225名(生徒児童・先生・保護者)
		かきつばたホール		実績値	6,822
2	アートで育む“ひと・こころ・まち”プロジェクト「こどもアートふれあい事業」 for 幼保育園	通年	出演者：人形劇団むすび座、マーガレット一家、日用品演奏ユニットkajii、ゆめみトランク他	目標値	2,500(園児、保育士、保護者など)
		幼保育園遊戯室		実績値	2,484
3	パティオ多文化共生事業2022 パティオちりゅう 昭和団地放課後クラブ	令和4年10月～5年2月	講師：飛田勘文(演劇教育・応用演劇研究者 芸術文化観光専門職大学助教)	目標値	6人×12回=72人(延べ人数)
		昭和児童センター		実績値	86
4	ふれあいコンサート	通年	出演者：トリオHikari 山口香(ヴァイオリン)、白井千生(チェロ)、猪俣広乃(ピアノ)他	目標値	1,500名(全11日・20回公演)
		花しょうぶホール		実績値	1,165
5	シアターカレッジ アートDEコミュニケーション	令和4年4月15日	講師：流山児祥(俳優・演出家・一般社団法人流山児カンパニー代表)、河合依子(俳優、岐阜ろう劇団いぶき代表)	目標値	9人×2回=18人(延べ人数)
		リハーサル室1		実績値	19
6	パティオDE夏休み2022	令和4年7月27日	出演者：人形劇団むすび座、劇団うりんこベイビーシアター、白鳥ユウ、小島万里奈他	目標値	610人
		リハーサル室1		実績値	403
7	パティオバリアフリー事業2022 HANDSIGN LIVE	令和4年10月8日	HANDSIGN(ハンドサイン・TATSUとSHINGOの2人組ユニット)、市民手話パフォーマー15名 他	目標値	入場者400名+手話パフォーマンス参加者20名
		かきつばたホール		実績値	254

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価														
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。														
<p>当会館では、「文化芸術活動の拠所として個々人並びに地域社会に貢献する」というミッションのもと、施設管理、自主企画事業、貸館事業、経営・組織の4つの視点によるビジョンを設定し、地域の特性やニーズのもと、当地の社会的な課題として【地域コミュニティの再生】、【共生社会実現】、【地域への愛着心向上】を設定し、事業活動を推進。知立市が定める条例・計画は、国の文化芸術関連法規等に記載される、文化芸術の多様な価値による、劇場の社会的な効用の発露に向けた様々なあり方についても、取り込まれており、当協会が設定するミッションとの齟齬もなく、知立市文化会館の事業活動を後押しする形となり、実施した各事業が下表のとおり当初の事業計画がおおむね適正に進められたと評価する。</p>														
知立の地域的な特色 在原業平・八橋「かきつばた」 東海道39番目「池鯉鮒宿」 知立の山車文楽とからくり			文化芸術の事業活動により、 移りゆく「地域ニーズ」と「社会貢献」の バランス感を意識し事業を展開 知立市文化会館（パティオ池鯉鮒） 一般財団法人ちりゅう芸術創造協会						地域劇場の 取組活動 【助成対象 事業】		社会的な課題解決 地域コミュニティの再生 共生社会の実現 地域への愛着心向上 地域住民、地元企業・団体 及び自治体			
知立の文化に係る歴史的な背景 自動車産業の町のベッドタウン 交通の要衝、高い外国人居住者割合			知立市文化芸術基本条例・推進基本計画						ミッション ビジョン					
課題と事業の対応	公1	2	人1	2	3	4	普1	2	3	4	5	6	7	評価
地域コミュニティの再生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○：集客に課題
共生社会の実現							○	○	○		○		○	◎：適正に推進
地域への愛着心向上	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○：集客に課題
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。														
<p>劇場の取り組む各種の意義については、市民・地域の要望として顕在化されたものから、潜在的なニーズ等様々であり、当館では条例・計画の無い段階では国の関連法規等をふまえて、協会がそれを推進する立場をとって実施してきた。令和2年度に策定された「知立市文化芸術推進基本計画（以下「計画」）」により、設置者・市民目線での当劇場の在り方が示されたため、文化芸術を通じた地域の社会機関としての役割を担い、劇場の存在意義を高めている。</p>														
意義	主たる意義の内容			意義につながる対象事業				計画への記載項目						
文化的意義	実演家・作品との出会い 地域の実演家・団体活用			全事業 公2、人1・2・4、普1・4・6				基本施策 1. 1-1. ② 基本施策 3. 3-3. ①						
社会的意義	鑑賞機会のバリアフリー化 共生社会実現の取組み			普1・2・3・4・5・6・7 普1・2・3・5・7				基本施策 1. 1-4. ④⑤ 基本施策 1. 1-4. ④⑤						
経済的意義	青少年育成事業 地域の文化資源活用事業			公1、人1・4、普1・2・3・6・7 公2、人2				基本施策 1. 1-4. ①②④ 基本施策 1. 1-1. ⑥						
<p>今後の課題としている共生社会の実現に向けた多文化共生の視点を満たす事業の充実であるが、今年度新たに立ち上げた普3事業の取組みを核として、中長期的な観点で計画していく。また、限られた組織の資源（ヒト・モノ・カネ）を効率的かつ有効化できるように、事業活動の優先度を定め将来のありたい姿に向けたロードマップの作成と作成後の共有を進める事により、組織体制の安定化や事業活動の発展を図り最適化に取り組んでいく。</p>														

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

令和4年度に実施した助成対象事業について、各事業で設定した目標・指標のもと、対象データの計測結果及びアンケートの集計結果により評価し、その結果を下表のとおりまとめた。

(表凡例・・・○:対象の80%以上達成、△:40~79.9%達成、×:39.9%未満達成)

また直接効果に定めた事項について、その成果と各項目との対応は次の通りである。

【地域コミュニティの再生】地域交流・社会参加促進・・・「直接効果」1、2、3、4、5

【共生社会実現】障がい者の文化芸術活動への参加推進・多文化共生・生活の安心・・・「直接効果」1、2、4、5

【地域への愛着心向上】生きがい醸成・まちづくりへの貢献・文化遺産の継承・・・「直接効果」1、2、3、4、5

直接効果	根拠	目標・指標(達成度・評価)	事業
1.地域住民へ波及効果	i 入場者・参加者数率	60%以上(50.0%・△)	公演事業
	ii 初めての事業来場	3~5%(100%・○)	普 4,6
2.来場者・地域住民の高い満足度	i 公演内容に対する満足度	90%以上(50.0%・△)	公演事業
		65~90%以上(60.0%・△)	人材養成事業
		90~95%以上(66.7%・△)	普及啓発事業
	ii 地域の文化環境に対する満足度	70~95%以上(80.0%・○)	普 1~3 以外
3.鑑賞者・参加者への文化芸術に関する高関心度・参加度合	i 関心度の向上に対する自己評価値	90%以上(100%・○)	公演事業
		85%以上(100%・○)	人材養成事業
		78~95%以上(100%・○)	普 1,5,6,7
	ii 鑑賞以外の文化活動参加率	40~75%以上(36.4%・×)	普 2,3 以外
4.鑑賞者・参加者の社会参加の意識向上・能動性等獲得	i バリアフリー事業への支援意識率	95%(100%・○)	普 7
	ii 社会的少数者に対する受容意識率	55%以上(100%・○)	普 7
	iii 社会参加意識の醸成割合	90%以上(0%・×)	公演事業
5.参加者の、学び、発見、気づき、コミュニケーション能力の向上	i 文化芸術活動への参加による気づき・発見・学びの獲得者割合	75~95%以上(66.7%・△)	公,人 1,2,普 5,7
	ii 参加者のコミュニケーションの機会向上に対する自己評価値	70~85 以上(50.0%・△)	普 1,3

これらの11項目を細目単位で評価すると、達成42項目(65.6%)、不達成22項目(34.4%)で、おおむね目標・指標を達成し得たといえる。

「達成度」が低い評価事項でコロナ禍による影響を受けた事業と推測されるのは、3-iiの「鑑賞以外の文化活動参加率」で、コロナ禍による外出自粛傾向によるものであると評価している。

1-iiの項目については、今回の成果報告で初めて取り入れた評価事項であり、劇場に対して初めての来場を促す事業において今後も計測していき、波及効果の評価軸として考察をしていく。

その他の項目については、目標・指標値の適正化なども併せて検討し、客観的な評価として有効な根拠となるように、データの継続的な収集に努めていく。また、「達成度」の高い目標・指標についても、実績を重ねるなかでより適正な目標値への調整や実績値の向上も必要であるため、「達成度」の低い項目と同様に調整・精査を重ねていく。

【指標設定の考え方、データ根拠】

- ・一般的な劇場における事業評価項目より指標設定:「直接効果」1、2- i
- ・社会的インパクト評価イニシアチブ(社会的インパクト評価イニシアチブ事務局) <https://simi.or.jp/>「社会的インパクト評価ツールセット文化芸術 Version 1.0」より評価指標設定:「直接効果」の3- i、4、5
- ・文化芸術推進基本計画-文化芸術の「多様な価値」を活かして、未来をつくる-(第1期)平成30年3月6日閣議決定の巻末参考資料「進捗状況を把握するための指標について(現状データ集)」よりデータ根拠:「直接効果」の2- ii、3- ii

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間については下表の通り、当初の予定に対して期間の実績は普1事業を除き変更なく、計画的に遂行した。なお、普1事業の回数の減少は、コロナ禍の影響で上演を収録映像の提供により実施したものである。

事業	当初の事業期間 ()内は事業番号	事業期間実績	評価
公演	(1)WS1日、公演1日、(2)交流プログラム3日、公演2日	(1)WS1日、公演1日、(2)交流プログラム3日、公演2日	当初の計画通り実施
人材養成	(1)研修8日、(2)公演1日、(3)WS4日、(4)WS2日、公演2日	(1)研修8日、(2)公演1日、(3)WS4日、(4)WS2日、公演2日	当初の計画通り実施
普及啓発	(1)公演21日	(1)公演19日	映像提供のため
	(2)公演16日、(3)アウトリーチ6、(4)公演11日日、(5)WS2日、(6)WS4日、公演4日、(7)WS6日、公演1日	(2)公演16日、(3)アウトリーチ6、(4)公演11日日、(5)WS2日、(6)WS4日、公演4日、(7)WS6日、公演1日	当初の計画通り実施

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費については下表の通り、令和4年度においては収入・支出の観点で新型コロナウイルス感染症の影響は公2事業で舞台と客席との距離を保つための会場変更に留まった。※下表予算値は要望書時点。

事業	当初の事業予算(千円)			事業費決算(千円)			比較率(決算値/予算値)			評価(※はコロナ影響によるもの)
	収入	支出	収支差額	収入	支出	収支差額	収入	支出	収支差額	
公1	126	2,429	-2,303	124	2,678	-2,554	98.4%	110.2%	110.9%	やや適切
公2	5,289	10,836	-5,547	4,488	9,442	-4,954	84.9%	87.1%	89.3%	適切・適正な支出減
人1	0	462	-462	0	409	-409	—	88.5%	88.5%	適切・適正な支出減
人2	0	486	-486	0	466	-466	—	95.9%	95.9%	適切・計画通り
人3	40	157	-117	31	205	-174	77.5%	130.6%	148.7%	やや不適切・支出増
人4	210	1,108	-898	163	835	-672	77.6%	75.4%	74.8%	適切・適正な支出減
普1	750	6,668	-5,918	527	5,319	-4,792	70.3%	79.8%	81.0%	適切・見込み支出減
普2	310	2,124	-1,814	274	1,907	-1,633	88.4%	89.8%	90.0%	適切・ほぼ計画通り
普3	0	526	-526	0	378	-378	—	71.9%	71.9%	やや適切・始動ずれ
普4	0	739	-739	0	601	-601	—	81.3%	81.3%	適切・見込み支出減
普5	9	197	-188	9	119	-110	100%	60.4%	58.5%	適切・事業効率化
普6	486	2,000	-1,514	248	1,909	-1,661	51.0%	95.5%	109.7%	やや適切・収入課題
普7	617	2,202	-1,585	541	1,754	-1,213	87.7%	79.7%	76.5%	適切・事業効率化

事業期間・費用に対するアウトプットに対する評価については、満足度と来場者率で評価・分析する。満足度については公演事業で76.6%、人材養成事業79.3%、普及啓発事業82.3%といずれも75%以上の高い数値を示したため満足度の視点における効率性については適正であったと評価する。

定員に対する来場者率(実績/定員)では、公演事業:50.5%、人材養成事業:30.5%、普及啓発事業:52.4%となり、いずれも55%未満の入場者率となった。これには新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う「外出自粛モード」による鑑賞機会の取り止めや、感染予防対策に伴う会場の客席の密を避けるための定員半減という、拮抗する両面での影響を考慮に入れられないといけないため、単純には結論付けられないが更なる来場者の獲得を目標に、満足度・来場者率が共に良好な結果となり両面で効率化が図れたと評価できるように、今後については企画内容による、最適な目標人数を設定するとともに、事業期間・事業費についてもさらに精査し、適正化に努める。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

(1) 劇場の創造性を生み育む人的資源について

当劇場においては運営責任者を理事長が務め、その役割は市と協会との絆を強め劇場の円滑な運営に寄与するほか、館長として事業日に、会場で来場者やホールボランティアといった市民との積極的な交流を図り、劇場と市民との橋渡しに努め信頼性向上に寄与した。

芸術上の監督者である事務局長は、知立市の伝統芸能でユネスコの無形文化遺産にも登録される、知立の山車文楽（山車の上で演じる人形浄瑠璃）の人形遣いとして25年を超える経歴をもち、また入職前には劇場で企画制作する創造事業（2005・2010年）にもキャストとして参加し、それらの経験が現職に活かされ、事業プログラム（助成対象事業）の選定・承認や予算処置について事業係全体を総括・監督し、コロナ禍においても安心・安全な事業運営を遂行した。

舞台技術責任者は前職で培った舞台技術者としてのノウハウを活かし、前事務局長補佐であった再雇用職員があたった。その役割は助成対象事業において、事業担当者と舞台管理の常駐委託スタッフ及び外注する舞台技術職者との円滑な業務進行のためのサポートやアドバイスを実施し、業務遂行における舞台技術面の下支えに努めた。

制作者については知立市が設立した団体の職員として、指定管理者制度に定められた期間はあるものの、地域性に適った創造性を有する制作者の育成環境が整っている。現在の制作者の陣容では、普1事業において現場の音響を受持つ舞台音響の資格所持者、普7事業において聴覚障がい者とのコミュニケーションに長けた手話通訳の心得者をはじめ、ステージマネージャー経験者、劇場関係 NPO 理事など多岐に貢献する人材が所属し、助成対象事業の企画制作を遂行した。このような、事業活動の成果により、当劇場は令和2年度の「地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞。その受賞理由として、公2・人2事業に代表される地域の伝統的文化資源を活かした創造事業や普1、2事業のアウトリーチ活動等が評価された。

(2) 劇場の専属団体、提携団体の存在について

専属団体としては「パティオ登録アーティスト」という実演者バンクを備えており、助成対象事業においては人4、普1、2の各事業でももに一般市民・青少年向けに良質な演奏を届けている。

その他の提携団体として、事業への市民参加として公2事業においては知立山車文楽保存会、人1事業での研修を中心に、普1、2、3事業を除くすべての事業においてフロント、舞台道具・小道具作成などで貢献するホールボランティア「パティオ・ウェブ」等があげられる。また、普1、2：学校教育課・園・学校（11年）、普4：市社会福祉協議会（4年）・知立障がいフォーラム「リング C」（5年）といった、事業毎の各団体との連携があげられ、市民・近隣地域住民及び各団体の関係者等へ、助成事業の発信力向上や波及効果拡大の面で、貢献をいただいている。※（）内が連携年数

(3) 創造活動に関わる建物設備について

ハード面では大・小ホールがそれぞれに特性を有しており、コロナ禍への対応としての客席の制限をする場合を除き、助成事業の性質に応じた会場選定を可能としている。特に、大ホールでは人4公演のような音響反射板を活かした音楽事業、小ホールでは公1、人2事業のような小劇場演劇作品・山車文楽からくりの上演に最適で、人3、普5事業のワークショップで使用するリハーサル室1も含めて、多機に渡り活用することができ、柔軟な事業企画運営を可能としている。

(4) その他 新型コロナウイルス感染症への対応

来場者の安心のために、体温測定器具の導入や入場待機中のソーシャルディスタンスの確保、マスク着用、手指消毒といった感染予防対策をはじめ、配布物の積置きやアンケートのWEB化といった直接の接触を回避するための取り組み、さらにチケットの無い事業等の入場者管理等も含む諸対策により、来場者の安全確保に引き続き努めた。

また公2事業での市民参加者を含む稽古時のケアや、普1、2、3事業のアウトリーチ先でも同等の安全対応を実施した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

(1)公演、人材養成、普及啓発の各事業による地域の実演芸術等の振興

①公演事業による地域の実演芸術等の振興について

【公1】日本の小劇場演劇界をけん引してきたひとりである俳優・演出家の流山児祥率いるシニア劇団を招聘し、コロナ禍のため停滞・消沈気味の当地の演劇活動に活力をもたらすとともに、鑑賞者に豊かな心・活力を届けられた。

【公2】3年計画で進める事業の最終年度として実施。地元の文化資源を活用する創造事業として、各種の事業でも関りの深い知立山車文楽保存会や知立とゆかりのある演出家、テクニカルスタッフ陣で固め、知立オリジナルの企画として創造・発信する事ができた。一過性とならない継続的な事業として知立市のレガシーとなる作品創りとした。

②人材養成、普及啓発の企画内容の高さ、特色について

【人1】劇場の開館時より市民による劇場応援団として活動するパティオ・ウェーブについて、5つある各セクションに最適な研修機会を用意し、参加者の視野・意識拡大や活動のモチベーション向上に資することができた。

【人2】コロナ禍において、祭りにおける奉納上演が自粛される中、発表の機会を担保する事で地元の伝統芸能の技量の継承や向上に資することができ、また地域住民へ鑑賞の機会を提供する事で地元への愛着心醸成の機会とした。

【人3】地元出身アーティストとの交流の機会として、その体験価値においては公演鑑賞とは違って直接的なふれあいを通じた参加者同士の連帯感の醸成につなげ、実演家や劇場への愛着心向上に寄与する事ができたと評価する。

【人4】パティオ登録アーティストを対象に、コロナ禍で縮小傾向にある演奏家の発信力向上に資する事ができた。また、シリーズ企画として知立になじみのあるゲストプレーヤーとの市民参加型のワークショップによる交流にも寄与した。

【普1・2】本事業の継続により将来的にはこの事業の鑑賞者であった子どもたちが親世代となり、次世代へと循環し「文化芸術の多様な価値」が広く地域に浸透する礎となる事が期待される。

【普3】地域性を反映した多文化共生事業のステップ企画として、市内でも多くの外国籍住民を持つ昭和地区での、子ども向けワークショップを展開。ここでの活動を通して知立市ならではの多文化共生事業の足掛かりとして始動した。

【普4】コロナ禍の影響により、ホール開催となっているものの、ロビー開催時と同様にだれもが気軽に音楽鑑賞ができる機会として実施できた。実施回数についてもコロナ前の水準へと回復し鑑賞機会の向上に資することができた。

【普5】演劇分野の2名の講師により日常生活では経験しがたい受講者同士の深い交流を図ることができた。障がいのある方も交えた参加者全体での表現方法を探るワークを通して、共生社会の実現に向けた意識向上の機会とした。

【普6】夏休みに実施する企画として、多くの子ども達が家族と一緒に参加できるよう劇場体験の入門編として展開。初めての劇場体験(シアター・スタート)となる、ベビーシアター等のラインナップも継続実施することができた。

【普7】近年当劇場が取り組みを継続する、障がいのある方もない方も一緒に楽しめるバリアフリー事業として、地元の福祉団体と劇場とが連携し、手話パフォーマーHANDSIGNを招へいし若い層への波及効果を図りつつ実施された。

(2)文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信について

ソーシャルネットワークサービス関係では、Facebookで投稿数41件、いいね等561件、ツイッターで投稿数38件、いいね等129件、インスタグラムで投稿数13件、いいね等280件、ユーチューブによる動画投稿が15件、視聴者数13,615件となった。事業により発信頻度の偏りが見られるため、発信機会の均等化と向上に努めていく。

さらに会館情報誌に公2、人4、普6の各事業を表紙写真や関連記事、インタビュー記事として掲載し、広く周知し得た(発行部数5,400冊・2回発行分)。

これら活動の情報発信を含む劇場から発信する創造活動を通じて、地域住民、地元企業・団体及び自治体といった「ステークホルダー」に対して、各々が抱える、顕在・潜在化する様々な課題やニーズへの対応をはじめ、事業活動を通じて得られる来場者・参加者からの声(アンケート)に向けて、市の進める文化芸術推進基本計画の施策を汲み入れ、それらをフィードバックする形で事業活動が展開されており、適切に地域の文化芸術の発展に寄与したと評価する。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

助成対象事業における PDCA サイクルは、その運営機関として組織の事業会議・運営会議を核として展開し、スパイラルアップを図っている。事業運営、経営戦略、人事戦略、各種連携などの4つの視点については、各段階において記載の事項等を意識した方策がとられ、持続可能な組織となるための成長の糧としている。

計画(Plan) 運営機関:事業会議・企画会議→担当課の確認→理事会での事業計画承認

事業運営:全職員を対象とした企画提案の機会

経営戦略:比較的フラットな組織運営

人事戦略:マルチな人材育成

各種連携:劇場及び個人間の繋がり

実行(Do) 運営機関:担当者の業務遂行→事業会議での情報共有や相談→運営会議での重要事項の検討・承認

事業運営:検証結果・事業目的を意識した実務

経営戦略:重要事業では複数担当制

人事戦略:業務円滑のためのフレキシブルな体制

各種連携:劇場間交流の機会均等・ローテーション

検証(Check) 運営機関:各担当者のデータ検証→会議での評価→報告(指定管理者報告、理事会、評議員会)

事業運営:アンケートの結果等の検証と評価

経営戦略:事業に即したアンケート様式の検討

人事戦略:会議、四半期、最終報告と複数の評価機会

各種連携:関係団体からの評価・意見を確認

改善(Action): 運営機関:事業会議・運営会議での次期企画における課題検討と課題解消策の反映

事業運営:次期企画へのフィードバック

経営戦略:事業推進のための資金確保策の検討

人事戦略:業務集中を避け、経験値向上に向けた分掌

各種連携:関係団体への継続的なフォローアップ

当協会の職員においては業務のマルチ化を推進し、限られた人数でも柔軟な組織デザインがとれる形態を目指している。また組織強化に向けては、平成26年度より一般職員の正規雇用化を推進し、生活基盤安定化による組織への定着が進み、令和4年4月時点での正規雇用率は 88.9%(特別職、再雇用、臨時職員除く)であり、一昨々年度向上した数値で、雇用環境が保たれている。その結果、過去5年間の定年者・臨時職員を除く職員の離職率は0%となっている。

財政面においては、令和4年度を含むこの3年間の推移は下表のとおりである。

	収入(千円)			支出(千円)			
	R2	R3	R4	R2	R3	R4	
事業収入	5,807	9,205	14,789	事業費	30,397	32,940	54,424
施設利用料	12,709	19,067	22,757	管理費	186,511	185,608	195,181
指定管理料	257,629	246,437	262,537	人件費	66,794	66,062	65,077
補助金等	16,783	19,498	19,958	支出計	283,702	284,610	314,683
協賛金	785	395	435	収入計	293,928	295,454	320,949
友の会会費	90	306	261	収益率	103.6%	103.8%	102.0%
その他	125	546	210				

施設設備の管理運営及び財団の法人運営資金となる指定管理料については、昨今の電気料金などの値上げによる光熱水費の補正予算の影響もあり、管理経費の安定化が図られた。

自主企画事業については、利用料金を原資とし、チケット収入や助成金、協賛金等を獲得することで運営されている。令和2年度においては、コロナ禍の影響により施設利用料収入が前年度比で 39.8%の減少と大幅な減少となったが、令和3～4年度にかけて復調しつつあり、事業予算の安定化につながった。

しかしながら自主企画事業が施設の料金収入を原資とする性質上、不測の事態による収入の減少が健全な事業運営の大きな障壁となる状況は変わらないため、その点のリスクを回避するための方策の検討が今後の財務面での課題といえる。中期的な対策としては、将来的な施設管理運営において予測される施設の大規模改修時の事業予算確保を中心に、これらの文化事業の予算の在り方については引き続き市と協議を重ねていく所存である。